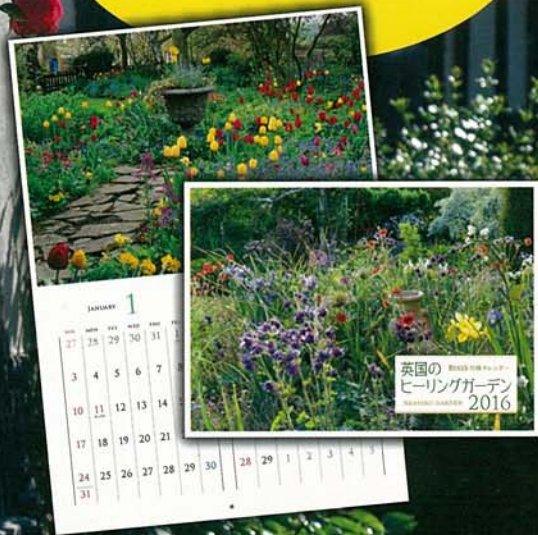


【ガーデニング誌ビズ】付録カレンダー2016

BIZSES

ビズ No. 99
[冬号] 2015年12月

特別付録
2016カレンダー
「英国のヒーリングガーデン」



イギリスの作家たちの庭

生誕125年
ミステリーの女王

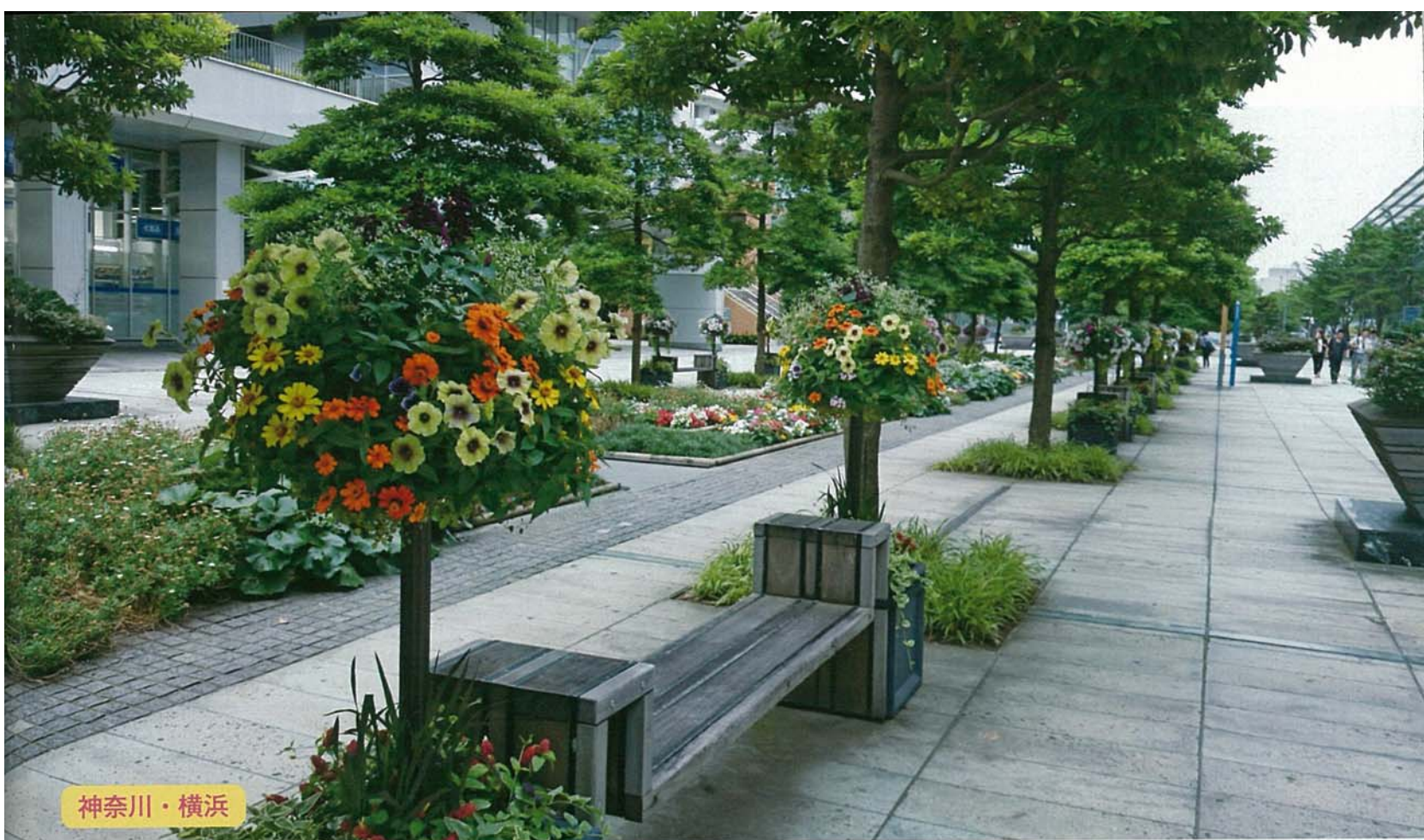
没後400年
天才劇作家&詩人

生誕100年
児童文学作家

アガサ・クリステイ
ウィリアム・シェイクスピア
ロアルド・ダール

別冊付録
ガーデングッズ
通販カタログ

Home & Garden
快適のデザイン
ガーデンセラピー
～最新科学で探る「庭」のカ～
「かかりつけ医」が作ったバラの庭
歌舞伎座の屋上ガーデン



神奈川・横浜

横浜グランモール公園のベンチと組み合わせられたスタンディングバスケット。行政も花と緑を取り入れる方向へ動きつつある。



東京・墨田

ガーデニングが全国的に広がり始めた20年ほど前、ハンギングバスケットも人気を集め出しました。花を愛する人たちにとって、家の門扉や塀を寄せ植え感覚で飾れるうれしさ。そのパワーが今、街へと進出しています。協力／一般社団法人日本ハンギングバスケット協会

街を彩る ハンギングバスケット



東京・渋谷

(上) 開放感のある光景を作り出す、とうきょうスカイツリー®とハンギングバスケットのコラボレーション。墨田区の環境保全課とボランティアが中心となり、区内の各所に設置している。(左) 渋谷公園通りを彩るハンギングバスケット。

東京
丸の内&日比谷

(左) 丸の内仲通り。一流ブランドが並ぶシックな風景に、鮮やかな色合いのハンギングバスケットが映えて美しい。(下) 日比谷公園内にある老舗の洋食屋「松本楼」では、季節ごとに植え替えたハンギングバスケットが出迎えてくれる。



日比谷公園では毎年秋に大規模なガーデニングショーが行われ、ハンギングバスケットのコンテストでは数多くの華やかな作品が集まる。また、日比谷公園から続く丸の内仲通りでも同時期にハンギングバスケットが飾られ、都市景観のあらたな魅力が道行く人を楽しませる。東京の一等地にあるオフィス街は、秋口から多くのハンギングバスケットで彩られる。



最近、都市の中でハンギングバスケットを見かける機会が増えています。例えば東京・丸の内。有名ブランドが立ち並び、モノトーンを主体にまとめられたビル街に飾られた吊りタイプのハンギングバスケットは、花々の鮮やかな色彩で、街中をさらにスタイリッシュな空間へと演出します。近年、ハンギングバスケットにも様々なデザインが生まれ、横浜市のまっすぐ伸びる歩道に据えられたベンチには、新鮮なスタンダード仕立てが組み合わされ、景観デザインの効果的なアクセントになっています。このように公共空間に設置されるハンギングバスケットは、企業や地区行政の緑化推進運動によるもので、協力する市民の手によって作られ、管理されています。

また一方で、装飾としての役目を終えたハンギングバスケットを捨てずに回収し、植物と土を培養土として再生させる取り組みも始まりました。循環する都市のガーデニングシステムも生まれています。

日々の暮らしを彩る
ハンギングバスケット

コンテナとハンギングを組み合わせた華やかな作品。庭の緑が背景として魅力を引き立て、思わず足を止めてしまう。撮影／三浦明



(上) 東京都内の個人邸の庭先。定期的に並んだハンギングバスケットがオシャレ。(左) ホワイトクリスマスイメージ、白とグリーンで仕上げた爽やかな作品。次ページで作り方を紹介。(左下) 北海道の個人邸では、優しい色合いで統一した庭の花々とハンギングバスケット、エクステリアが調和し一つの景色を作り上げている。



ガーデナーが日々の暮らしの中で手作りしたハンギングバスケットが、住宅街に親しみのある景観を作っています。種々の緑や季節感のある花々が寄せ植えされたハンギングバスケットは、コンテナ作りと共に、地域の好きの輪を広げ、和やかな空気感さえ醸し出しています。家々のエクステリアにほんの少しでも花をあしらう心配りがあると、そこに住む人の心映えが道行く人にも伝わるもの。門扉やフェンス、玄関を彩る花飾りは、生き

生きとした住宅街を印象付け、登下校の途中に足を止める子供たちも多いという声も聞きます。20年前、日本で初めて全国的な組織を作った、日本ハンギングバスケット協会は、これまでに数多くの技術者を育て、花を身近に、手軽に楽しむ暮らし方を広めてきました。地域の教室や講習会で作り方を学ぶのも、趣味の世界を広げるきっかけになります。植物知識を広げる実用的な場でもあります。



(上) 今年で13回を迎えた「日比谷公園ガーデニングショー」。毎年行われるハンギングバスケット・コンテストには100基以上の作品が応募。昨年の東京都知事賞は大橋朝子さんの「花散里」。(下) 神奈川県横浜市には役目を終えたハンギングバスケットの植物と土を堆肥へ戻す大規模な農場がある。



武内嘉一郎

日本ハンギングバスケット協会 理事長

もつと積極的に花と暮らそう！ 日本ハンギングバスケット協会 全国ネットワーク

ハンギングバスケット作りは今では全国的に浸透し、大都市はもちろん、様々な地方都市の街並みを飾るまでになりました。飾る場所に合わせて、形も半球形から完全な球形までいろいろです。日本ハンギングバスケット協会が設立された1996年以降は、毎年ハンギングバスケットマスターと呼ばれる師範が誕生し、各地で教室や講座を開いて、作り方の指導にあたっています。花材も美しさはもちろん、サイズや生長、丈夫さなどの条件を備えた優れた品種が次々生み出されて、デザインも進化を続けています。

ハンギングバスケットが都会の街へと進出した記念すべききっかけは、日比谷公園100周年を記念して始まった「日比谷公園ガーデニングショー」へ協会として参加出来たことでした。この季節、隣接する東京・丸の内仲通りのビル街にも美しいハンギングバスケットが彩りを添えます。東京の中心地からの発信には、強いメッセージ性と影響力があります。

ハンギングバスケットを作ってみよう

指導 上田奈美



側面に3段と天部(上面)に植え込みをします。用意した苗は、フランネルフラワー4株、エリカとオレアリアリトルスモーキー各3株、コロキア2株、エレモフィラ、ヘリクリサム、ヘデラ、ブラティーナ各1株の計16株。



このハンギングバスケットを作るときに用意する材料の一覧です。右から時計回りにスリットバスケット、園芸バサミ、スリットバスケット用のスポンジ、水苔、肥料、スコップ、棒、培養土。





日本ハンギングバスケット協会
副理事長
上田奈美



(右) 白いキャンバスに描かれた立体的な絵のようなハンギングバスケット。色とりどりの花が玄関前のアクセントに。(左) 国立西洋美術館の入り口に設置された、置型ラウンドのハンギングバスケット。日本ハンギングバスケット協会として関わった国立西洋美術館の花飾りでは、入り口だけでなく美術館の庭や展示物前にも花飾りが設置された。



真夏に強いハンギング作りと ”花育“に力を入れて

日本ハンギングバスケット協会は全国を3つのエリアに分けています。東日本、中日本、西日本です。北海道、東北、関東甲信越をまとめる東日本では、現在地域の枠を超えて、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて様々な活動をしています。真夏の開催とあつて猛暑の中でも美しく咲き続ける品種選びや、立体的な街並みの飾り方を工夫するなど、今から技術的な面でのトライを始めています。花溢れる東京にしたいという思いは、高い目標を持つことにつながり、メンバーたちの気持ちもひとつになっていきます。また、「花育」も大切な目標で、子供たちの花に触れる機会が少しでも増えていくように、協会としての活動に組み入れています。



北海道のハンギングバスケットがある風景。春の訪れとともに開花したチュウリップのハンギングバスケットから、溢れる生命力と喜びが感じられる。



元肥として培養土に緩効性肥料を混ぜ、容器に入れます。この段階で入れる培養土の分量は、上の写真で示したラインまで。



スポンジの粘着面は強力なため、容器に貼りつけた後は表面を洗うように培養土を付けて、苗の花や葉などがくっつかないようにしておきます。



容器の5つのスリットにスポンジを貼ります。スポンジは植物苗をスリットに通す際にクッションの役割を果たし、また土が外にこぼれないようにする効果があります。



スポンジに貼ってある紙を剥がし、容器の縁の高さに合わせて内側に貼ります。少し紙を剥がして貼りつけ、位置を固定してから残りの部分を剥がすと扱いやすいです。

日本ハンギングバスケット協会
副理事長

桂川孝裕



(右) 嵯峨野観光鉄道のトロッコ嵯峨駅に飾られたハンギングバスケット。地元のマスターが中心となり、10年間植栽の管理を続けている。(左) 滋賀県の「草津市立水生植物公園みずの森」には、水上にハンギングバスケットが設置され、水に映る姿も楽しめる。



九州で行われたマスターによる勉強会の様子。資格の取得後も、新しい技術の習得のため勉強は欠かせない。



京都で行われたオープンガーデンの様子。和の雰囲気漂わせる垣根に掛けられた、半円形のハンギングバスケットに夕日が射す。

京都・大阪から九州まで
個性のある街に花の潤いを

拠点を持った活動が特徴の西日本エリアは、それを生かしてコンテストや展示、教室、勉強会を活発に行っています。また、各地の花と緑のフェアに参加するほか、ハンギングバスケットを使ったイベント提案も行っています。京都府立植物園と共催した新春イベント「花詣」は、講師たちも多数参加し、熱のこもった催しになりました。その結果、植物園の冬の入場者数も増加したそうです。ハンギングバスケットによる地域貢献ができました。これからの課題は、現在関西・中国四国・九州に分かれている地区活動の交流を盛んにすること。情報交換によるスキルアップが出来るたら、参加する人たちももっと楽しめるのではと思っています。



側面を植え終えたら、最後に天部を植えていきます。天部の植物は側面の植物とつながるように植えこむと良いでしょう。

苗を入れたら、段ごとに培養土を入れます。その際、株と株の間などに隙間ができないよう、指や棒などで確認してしっかりと培養土を詰めていきます。

全体のレイアウトを決め、スポンジを貼ったスリット部分に苗を通して土に接する一番下の位置まで下ろします。他のスリットにも同様に根鉢を崩した苗を植えこみます。

苗をポットから出して土を落とし、根鉢を崩します。根をほぐして小さくすることで一つの苗のとるスペースを節約でき、容器の中に多くの苗を植えることができます。



日本ハンギングバスケット協会
副理事長
竹川文雄



(右) 三重県にある伊勢神宮の参道。国内外から訪れる大勢の参拝客をもてなすため、駅から外宮までの参道にハンギングバスケットを設置している。飾られたハンギングバスケットは、街に似合う和の雰囲気と統一されている。(左) 愛知県は花の生産量日本一で、花の街として知られる。



現在行っている活動を生かして
さらなる活躍と発展を

中日本エリアは東海4県と北陸3県で構成され、名古屋近郊に事務局を置いています。最近では、北陸新幹線開通に合わせた植樹祭など、大型イベントへの参加もどんどん行っています。今年で9回を数えた「堀川フラワーフェスティバル」では、ボランティアとともに名古屋市の堀川に圧巻の400基のハンギングバスケットを飾る恒例行事も、地元の方や旅行者に楽しんでいただいています。ちょっと意外に思われるかもしれませんが、この中日本エリアには伊勢神宮がありますが、外宮の道筋には「外宮参道」と書かれた提灯とともに球形のハンギングバスケットを吊るしていて、日本的な土地柄とハーモニーを奏でる演出が話題になっています。

取材協力 / vivo 洋光台本店

軍手は厚すぎて作業しづらいため、ドラッグストアで購入できる医療用手袋など、薄いゴム手袋がオススメです。



全体の様子を見ながら形を整え、水やりをして休ませます。水やりは秋冬でも2、3日に1度、水苔をしっかりと濡らすように、回しやりでゆっくりたっぷり行います。

培養土をしっかりと入れたら、仕上げに十分に水に浸してから軽く水を切った水苔を、土の上に厚さ1cm程に敷き詰めます。水苔には、乾燥防止と土留めの役割があります。

